

審査の結果の要旨

氏名 ユー イフオン

申請者は、「THE STUDY OF LIVELIHOOD DIVERSIFICATION AND MANAGEMENT SYSTEMS OF TRADITIONAL COASTAL FISHERIES IN EAST ASIA(東アジアにおける伝統的沿岸漁業の生計多様化と管理システムに関する研究)」について博士論文審査発表を行った。

本論文は、沿岸漁業者が複数の生計に従事する理由を明らかにし、加えて日本における伝統的な沿岸漁業管理の歴史的な発展経緯を解明し、更には伝統的な漁業や生計が東アジア諸国における現代の政策においてどう評価されているのかを明らかにすることを目的としている。

まず1つ目の課題である生計多様化について、本論文は、石川県能登半島で住民を対象とした調査票調査を実施し、生計多様化の歴史的背景、個人的志向（自己実現）、満足感（精神的な豊かさ）、伝統的な暮らしへの価値観といった要因を明らかにした。これらによって、持続可能な生計枠組み（Sustainable Livelihood Framework）に位置する生計戦略の一環として、生計の多様化の動機が理解できるとの視点を提供した。

2つ目の課題である伝統的な沿岸漁業の管理については、大分県姫島村の漁業協同組合に明治期から残る管理記録などの調査を実施し、漁業資源の管理は必ずしも漁獲努力と漁獲量の抑制の目的に限られてきているわけではなく、海藻採集への規制を含めて海洋環境の維持を重視した内容であることが新しく見出された。具体的には、明治37年（1904年）から数世代にわたって形成し伝承された沿岸漁業の資源管理に関する伝統的な取り決め「漁業期節」の原本を詳細に検討した結果、「獲り過ぎ」の抑制よりも「養魚の精神」が姫島の漁業管理の原点かつ核心となる理念であることを明らかにした。またこの「漁業期節」に基づく資源管理の伝統的知識を、姫島の漁業者は島の対岸にある国東半島における周辺の漁村とも共有し、より広範囲な漁場で持続可能な水産資源の総括的保全を試みていたことも分かった。姫島の事例は、資源利用者が必ずしも常に「コモンズの悲劇」を引き起こすとは限らない例を提供しているといえる。

また、姫島もかつては能登島のように、漁師は農業や家畜を営んでおり、い

わば複数の生計に従事していた。1960年代から漁業技術の躍進や日本の経済成長に伴い魚類の需要が増加したことから、姫島の漁業者や島民は労働集約的な農業を諦め、漁業を専門職として専念した結果、島の農業は衰退した。しかし、農業が衰退するにつれて水産資源も徐々に失われている状況が確認できた。

以上、本論文は、農漁村の経済において農林水産業は相互に関連しており、互いに依存していたことを明らかにした。石川県能登半島や大分県姫島村で観察されるように、農業、林業、漁業の伝統的なシステムは、大規模な現代農業に適さない中山間地や島嶼部にも存在する。これらの土地では、農業、林業、内陸および沿岸漁業を含めて、何世紀にもわたって続いてきた伝統的なシステムや、これを実現する巧みなモザイク土地利用が展開されている。しかしながら、今日の農林水産業の行政構造とその政策はセクター・ベースであり、伝統的な農業システムを保全することを重視するものではないため、農業、林業の伝統的で持続可能な実践を再評価する必要がある。

このため、本論文はさらに東アジア諸国における伝統的な農業の保全と価値するための既存の制度と政策を分析した。特に、国連食糧農業機関（FAO）が実施する **Global Important Agricultural Heritage System (GIAHS)** の認定制度を検証し、特に中国、日本、韓国における **GIAHS** 保全の発展を比較した。FAOが定めた **GIAHS** の5つの申請基準は、1. 食料と生計の保障、2. 農業の生物多様性、3. 伝統的な知識システム、4. 文化、価値観、社会組織、5. ランドスケープとシーヌープの特徴である。ただしこれらとは別に、3カ国がそれぞれの追加的な基準を設け、各国の農業を評価している。本論文では、追加的な基準の中でも共通するのは、歴史的価値、普及性、変化へのレジリエンス、多様な主体の参加、新たなビジネスモデルの展開、代表性などの側面であることを明らかにした。また日中韓の政府は、伝統的農業システムを財政援助や補助金によって救出すべく「死に瀕している産業」とはみなさず、これらの伝統的な農業システムは時間と変化に対してレジリエントで持続的なシステムだと認識し、次世代への伝承するための価値の保全を推進している。また **GIAHS** では、生計の多様化および農業の多様性を高く評価していることも分かった。

以上、沿岸漁業の生計は歴史的に見ても多様であり、漁業者は農業や林業における他の職業に従事することも多い。したがって、これらの伝統的な漁業の管理には、保全と持続可能な利用のために他分野のアプローチを取り入れることが重要であり、FAOによる **GIAHS** はこの行為を適切に評価し外部に伝える重要な手段となっていることを見出した。

本論文によるこれらの研究成果は、学術上応用上寄与するところが少なくないと考えられ、審査委員一同は本論文が博士（農学）の学位論文として価値あるものと認めた。